

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。

- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
- 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
- 3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実
  - (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
    - ア ICT活用授業改善推進チームを核に、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用の授業改善と研究を進める。  
学校教育自己診断(生徒)における、授業内容の+評価を、前年度(73%)以上に向上させる。(2021年度には75%)  
授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価の向上。平成31年度は81%・77%以上。(2021年度は83%・80%以上)  
学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を65%以上。(2021年度は72%以上)
    - イ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。  
学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。平成31年度は52%に向上。(2021年度は55%)
  - 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
    - (1) 「総合的な探究の時間」とLHR等を有機的に活用連携させ、3年間を通じた、計画的なキャリア教育、人権教育、道徳教育を実施する。
      - ア 各学年の計画から3年間を見通した計画への改善に取り組み、2021年度に完成する。キャリア教育、人権教育、道徳教育を主軸とした学習を実施する。  
学校教育自己診断(生徒)における、進路関係の+評価を、前年度(89%)以上にし、2021年度は維持する。  
学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上にする。(2021年度80%以上)  
学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした総合的な探究の時間の評価を79%。(2021年度は82%)
    - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
      - ア 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。  
就職決定状況の高水準維持(平成30年度内定者108名98%)、進学講習、勉強合宿等学習機会の充実。
  - 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
    - (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
      - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。  
部活動参加率60%以上への向上。2021年度は60%以上を維持。
      - イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。  
学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」評価を80%以上にする。(2021年度維持)
    - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
      - ア 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。  
学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」評価を48%以上にする。(2020年度50%)
  - 4 学校運営組織の充実と指導力向上
    - (1) 授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
      - ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。  
学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目の+評価は80%以上にする。(2021年度維持)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全般】</b> 本年度の学校教育自己診断の結果は、昨年度よりも向上した設問は【生徒】23項目中13項目、【保護者】21項目中11項目、【教員】25項目中5項目。昨年度よりも高評価となったものは減少しており、肯定率が5%以上減少した設問数は、【生徒】1項目、【保護者】なし、【教員】15項目である。教員アンケートの肯定率の項目減少が気になるが、その要因の一つとして、これまで低調であったアンケートの提出率が向上したことに関係があると思われる。</p> <p><b>【学習指導等】</b> 「学校に行くのが楽しい」(79%)、「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」(78.8%)、「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」(82.8%)といずれも高評価を得ている。 「授業は分かりやすく楽しい」(62.3%)は、昨年度よりも1.2%低い結果となっており、各教員は授業改善に向けて取り組んではいるが、ICT機器等ハード面の整備が不十分であり、より分かりやすい授業の実現には学習環境作りが必要である。例年の懸案項目となっている図書室利用については昨年度よりも3.5%減少し、47.9%となった。活字離れを止めるには抜本的な取組みが必要。読書習慣、読解力・学力の向上には、授業と家庭学習、部活動、アルバイト等の関連もふまえ、個々の生徒状況も考慮した細かな指導・対策が必要であると考えます。</p> <p><b>【進路指導】</b> 「将来の進路や生き方について考える機会がある」(86.8%)、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」(83.5%)と、昨年度よりそれぞれ3.1%、4.6%減少している。進路実現につながる「キャリア教育の充実」に</p>	<p><b>【第1回】R1.5.29(水) 平成30年度学校評価及び平成31年度学校経営計画について</b> (1)平成31年度学校経営計画について (2)平成30年度進路実績について 学校運営協議会委員より ・部活指導等、教員の負担軽減について外部の人材をもっと活用してはどうか。 ・「ノークラブデー」は部活をやりたい生徒にとってはマイナス要因にならないか。 ・部活動の活性化について中学校との連携をもっと増やすべき。部活動経験が就職時の面談や将来の自分にもつながっていく。 ・通学時の自転車マナーについてはもっと力を入れて行うべき。 ・西寝屋川高校の特色をもっと明確にすべき。(学校生活、部活動) ・女子生徒への指導(化粧)については改善が必要と考える。</p> <p><b>【第2回】R1.10.30(水) 授業見学と新入生アンケート結果について</b> ・プロジェクターを使用し、細かく指導されていたが、教室を暗くしていたからか、寝ている生徒が気になった。 ・板書は中・高の教員はおろそかになりがち。より丁寧な板書を心がけることが大切。 ・子どもたちが頭と体を使って、より活動的に行う授業を考えてほしい。 ・授業における子どもたちとの会話でも、教員の言葉遣いをきちんとしてはどうか。 ・以前の授業風景に比べると、格段に雰囲気は良くなっている。 ・プリントを使用する授業に関しては、ただ答えを聞いて写すだけのプリントではなく、生徒の考えや意見を書かせるプリントが良い。 ・グループ活動等で工夫をしている授業は生徒の雰囲気も良かった。 ・先生が色々工夫をして授業をしている。生徒が幼いような気がする。 ・授業をしている先生方の色々な工夫は見られたが、寝ている生徒や私語をしている生徒、</p>

<p>については、昨年と同様の結果を出しており、生徒の満足を得ている。</p> <p>【生徒指導等】 今年度の遅刻回数は12月現在で2955件、昨年度の同時期よりも988件減少している。1、2年生の遅刻数は減少する傾向にあるが、3年生の遅刻が減らない。 「生活規律や学習規律などの生活習慣の確立に力を入れている」(76.5%) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(80.9%) 「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」(71.3%) 「生徒指導の方針に共感できる(保護者)」(80.8%)の結果となっている。生徒指導については、保護者の理解を得て進めることができている。</p> <p>【今後の課題】 【生徒】「学校の図書館を利用したことがある」(47.9%) 「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある」(50.9%) 【保護者】「生徒がよく挨拶してくれる」(58.0%) 「子どもは、部活動に熱心に取り組んでいる」(50.0%) 「PTA活動に参加している」(18.0%)の結果を見ると、部活動の活性化、PTA・地域との連携など、生徒が社会とつながる場面を創出することが本校の重要な課題。部活動の活性化を重点課題とし、地域との結びつきを深めていきたい。</p>	<p>飲み物を机の上に置いている生徒への指導は徹底されているのか。</p> <p>新入生アンケートについて ・アルバイトをしている人数が減り、生徒の学習時間が増えている。 ・アルバイトや学習時間などは、簡素なアンケートを年度毎や時期毎の統計を取ってみてもよいのではないかと。</p> <p>5. 協議項目 新入生アンケートの活用について ・新入生アンケートの結果をどのようにとらえて、またその総括をどう行うかが大事。 ・「高校での目標」の欄に「勉強を頑張る」や「留年しない」「友だちを作る」は多いが、「将来の夢」としての記述がとても少ない。高校に入学後、その先の目標を持っていない生徒が多い。キャリア教育が大事。</p> <p>6. その他 ・西寝屋川高校の特色は、進学校や工科高校のように進学や就職に特化するのではなく、多様な進路選択ができ、それをしっかりと指導できる体制が整っているところにある。</p> <p>【第3回】R2.2.19(水)学校教育自己診断及び次年度学校経営計画他について 38期生の進路決定状況について(進路指導主事より説明) 進学について 大学・短大進学は指定校入試を活かした進学が増え、専門学校を志望する生徒も増えている。看護系の専門学校に指定校以外の公募、一般入試で合格した生徒が出たのはとても良い傾向。次年度はAO入試、指定校入試等のルールに変更があるので、スケジュールに注意して指導を行いたい。 就職について 求人は昨年度とほぼ同数。就職先に大きな変化はないが、サービス業への就職者が少し増えている。就職について、一人一社制、複数応募制について議論がされているが、府の対応に沿った指導を行う。 ・高校生の就職が複数応募制になり、大学生の就職戦線のようにならないことを願う。</p> <p>学校教育自己診断について(首席より結果報告) 昨年度よりも厳しい結果となっている。昨年度、提出率が低いとのこと指摘を受けた学校教育自己診断、教員の提出率については、大きく改善でき、98%となった。 ・アンケート項目の文言が難しすぎないか。生徒にわかりやすい言葉・表現内容にした方が具体的な言動・場面を思い浮かべて回答できるのではないかと。 ・細かい数値の増減は気にせず、学校として取り組むことが必要。 ・トイレに関する要望が多く記されている。改善される見込みはあるのか。</p> <p>次年度の学校経営計画について(校長より) 本年度の評価結果をふまえて、数値目標・文言の見直しを行ったが、基本となる内容・目標については変更していない。本年度は目標が達成された項目とされていない項目の数がほぼ同数となっており、次年度はしっかりとした取組みが必要と考える。 次年度の学校経営計画、「めざす学校像」「中期的目標」について承認を得る。 ・中期的目標の取組みについては「個々の取組み」「全体の取組み」に色分すると行動に移しやすい。 ・何か一つの具体的な目標に向けて、各分掌・教員の立場から考えを出し合って取り組み、成果を上げる方法もあるのではないかと。 ・学校経営計画を実践していく場において、進路指導・部活動など西寝屋川高校の特色をもっと打ち出してほしい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>ア 公開授業・研究授業・授業アンケートの活用</p> <p>ICT活用授業の研究</p> <p>学習到達度の低い生徒への学習指導</p> <p>イ 読書の促進</p>	<p>(1)ア・ICT活用授業改善推進チーム(IJKST)が核となり、本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校全体として授業改善に取り組む。</p> <p>・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ(職員研修等、事例発表)。</p> <p>・「わかる授業、充実した授業」の授業方略を導入するため、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学で多様な授業スタイルを共有する。(年2回以上実施)</p> <p>・到達度の低い生徒へのアプローチとして、補習も含めた授業外の学習体制を促進。</p> <p>・授業において、教師がタブレットPC等を活用して、生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備を進める。</p> <p>イ・図書室は学習においても活用し、さらに環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。</p>	<p>・各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行う。</p> <p>学校教育自己診断(教職員)による分掌・学年間の連携のプラス評価を80%以上を維持。(平成30年度は78.9%)</p> <p>・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの向上。(平成30年度は3.27、3.12)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価を65%以上(平成30年度63.4%)</p> <p>・学校教育自己診断における読書状況の図書館利用率52%目標。(平成30年度51.5%)</p>	<p>(1)ア ICT活用授業改善推進チーム(IJKST)が本年度も核となり、授業改善に向けての取組みを行った。西寝版Can-do-listも各教科で更新を行ったが、学校教育自己診断(教職員)による分掌・学年間の連携のプラス評価80%以上については、昨年度よりも15.9%低い63.0%となった。( )</p> <p>・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントは3.29、3.17となり、昨年度より向上。( )各教員の授業改善が高評価につながっている。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価は65%以上を目標としたが、昨年度より1.1%低い62.3%( )</p> <p>イ学校教育自己診断における読書状況の図書館利用率は52%を目標としたが、昨年度より3.6%低い47.9%( )</p> <p>授業アンケートの結果は昨年度よりも向上しているが、学校教育自己診断においては微減のものを含め、前年度よりも肯定的評価が低い結果となった。年間2回の相互授業見学、研修の取組みも昨年度よりも充実したものを行ったが、結果が現れていない。基礎学力の充実には各教員の取組みに加え、ICT機器の整備・充実も急務である。</p>

<p>2 たくましく生きる力の育成</p>	<p>(1) 3年間の計画的なキャリア教育、人権教育 ア 「総合的な探究の時間」に各教科指導・LHRを連携させたキャリア教育 人権・道徳意識の向上 (2) 進路実現の可能性を拡大 ア 各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現</p>	<p>(1)ア ・「HR等計画委員会」が中心となり、「総合的な探究の時間」の活用に向けて、現状分析と課題把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組み、希望進路の実現を図る。 ・外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育また、人権の生徒向け、教職員向けの研修を実施して一層充実させる。 (2)ア ・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。 ・進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。 ・進路決定後の進路別の接続を意識した学習の在り方を検討する。</p>	<p>・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間のプラス評価 79% (平成 30 年度 78.9%) ・学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上に向上。(平成 30 年度は 89%) ・進学希望者勉強会の参加者は昨年度並みを維持。(平成 30 年度は 35 名) ・人権・道徳教育の肯定率を昨年度以上にする。(平成 30 年度は 80%) ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率 78%以上。(平成 30 年度は 78%)</p>	<p>(1)ア 「総合的な探究の時間」の実施については委員会が中心となり取り組んだ。希望進路の実現に向けては結果を出しているものの、プラス評価 79%は達成できず、昨年度よりも 14.7%低い 64.2%( ) 現状分析、課題把握を再度行い、教員間の意思疎通を深め、今後の方向性について検討を行う。 ・進路関係のプラス評価を前年度以上としたが、昨年度より 2.7%低い 86.8% ( ) (2)ア ・進学希望者勉強会については、大学側との日程が合わず実施できなかった。 ・人権、道徳教育については外部講師招聘等で取り組み、肯定率を昨年度以上としたが、昨年度より 1.7%低い 78.3% ( ) ・学校教育自己診断の肯定率 78%以上としたが、昨年度より 6.7%低い 71.3% ( ) 日常的に挨拶は行われているが「自分から進んで」という点においては消極的な生徒が多い。 「総合的な探究の時間」進路実現に向けた取組みは一定の効果を出し、例年と同じ進路結果を出している。各取組みは順調に行われているが、目標を達成できない結果となった。より新しい取組みを行わなければならない状況になっている。次年度の 2 年次のクラス編成では進学希望生徒を意識したクラス編成を行い進学対策に取り組む予定。</p>
<p>3 規範意識と社会性を身につけたよき社会の構成員の育成</p>	<p>(1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2) 地域との連携の中で社会性を育成 ア 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める</p>	<p>(1)ア ・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取り組みを積極的に進める。 ・朝の S H R で遅刻防止、健康把握を行う。 ・交通安全週間の定期的な実施で、交通マナーの徹底を図る。 ・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 イ ・授業・H R のみならず、学校行事の中でも公民教育(主権者教育)を展開する。 (2)ア ・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。</p>	<p>・1年生の部活動加入率で 60%以上を維持。(平成 30 年度は 50%) ・全体の遅刻回数をのべ 3000 回以内とする。(平成 30 年度は 3,943 回) ・学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を 80%以上にする。(平成 30 年度は 79%) ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」に関する肯定率昨年度を維持。(平成 30 年度は 78%)</p>	<p>(1)ア 本年度も 1・2 学期を通じて複数回実施。1 年生の部活動加入率で 60%以上を維持。昨年度より 4.2%高い 54.2% ( ) ・全体の遅刻回数をのべ 3000 回以内を目標とし、生徒指導部、各学年の取り組みを行っている。1 年生 2 年生は減少しているが、3 年生の遅刻件数が減らず、3,733 回。( ) ・学校教育自己診断の評価 80%以上を目標に対して、昨年度より 1.9%高い 80.9% ( ) ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」については、昨年度より 1.6%低い 76.4% ( ) メール、ホームページを利用し、家庭への情報提供により努めたい。 (2)ア ・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事へ参加。生徒会執行部を中心に地域連携を行い、生徒の自尊感情の育成に取り組んだ。本年度、地域の標語コンクールにも応募し、地域の安全、防犯・防災に小中高連携で取り組んだ。( ) ・保護者向けの情報提供は昨年度より 1.9%低い 76.4%。次年度は緊急時の連絡体制の整備など効果的な情報提供を行う体制づくりが必要。生徒会・部活動部員を中心とした地域連携はできており、参加した生徒の満足度は高い。本校生徒全体が関わることができる場面を設けることが必要。</p>
<p>4 学校運営組織の充実と指導力向上</p>	<p>(1) 経験年数の少ない教員の指導力の向上 ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。 職員研修を実施し、学校全体の教育力の向上を図る</p>	<p>(1)ア ・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。 ・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。 ・授業改善シートを用いて、各教科で共通理解を図り、Can-do-list に落とし込む。 ・部活動基本方針に則り、ノークラブデー等の徹底</p>	<p>・学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価を維持する。(平成 30 年度は 78.4%) ・学校教育自己診断による相談に関する評価を昨年度以上にする。(平成 30 年度は 66%) ・職員研修を計画的に年 4 回以上実施。</p>	<p>1)ア ・初任者研修に関しては多くの教員が関わり、進めている。学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価については、昨年度より 1.4%高い 79.6% ( ) ・学校教育自己診断による相談に関する評価を昨年度以上にすることを目標とした。昨年度よりも 0.7%高い 67.0%となった。( ) ・職員研修、授業改善関係 2 回(外部講師)・人権関係 2 回(外部講師) 研修報告 2 回実施。( ) 内容や時期などを考え、次年度はより充実したものを実施したい。本年度より各教員が時間や場所を気にせず自己研修・学習できる動画サイトを準備。次年度も継続し、授業力の向上等、各教員のスキルアップにつなげる。 ・Can-do-list を更新し、各教科の取組みについて共有。Can-do-list の具体的な活用や、教科横断的な活用については検討が必要。( ) 全教員 1 年間の振り返り「授業改善シート」の提出 ( ) ・ノークラブデー等の徹底 ( )</p>